

大阪ガスのIR部長の松井です。

本日は、お忙しいところ、当社の2023年3月期第3四半期決算のオンライン説明会にご参加いただきありがとうございます。

また平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2023年3月期第3四半期決算について、当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

3ページをご覧ください。

### ■ P3 第3四半期決算、通期見直し修正のポイント

まず23年3月期第3四半期決算について説明いたします。

売上高は、国内エネルギー事業でのLNG販売価格の上昇や原料費調整制度に基づきガス販売単価が高めに推移したことによる増収、海外エネルギー事業での米国及び豪州の上流事業の増収等により、前年に比べて5,374億円増の1兆5,965億円となりました。

経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は、フリーポートLNGプロジェクトでの火災に関連する損失や、タイムラグ差損の拡大等により、前年に比べて減益となり、経常利益は前年に比べて785億円減の68億円の損失、純利益は565億円減の13億円の損失となりました。

次に通期見直しについてご説明します。

最近の業績動向を踏まえた結果、通期の業績予想に変動が生じることになりましたので、売上高と親会社株主に帰属する当期純利益の見直しを更新します。

売上高は、原料費調整制度に基づくガス販売単価上昇等により前回公表見直しを250億円上回る見直しです。

経常利益は、フリーポートLNGプロジェクトでの火災に関連する損失の拡大が見込まれる一方、JLC（全日本入着LNG平均価格）と比較した当社の長期契約LNGの競争力向上や、タイムラグ差損の縮小などでカバーし、前回公表見直しから変更はありません。

親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の売却による特別利益の計上により、前回公表見直しを70億円上回る見直しです。

なお、1月以降の業績予想の前提については、原油価格をこれまで想定していた1バレル100ドルから85ドルに、為替レートを1ドル145円から135円に見直しています。

### ■ P4 フリーポートLNGプロジェクトでの火災に関連する損失について

4ページに、今年度業績に大きな影響を与えているフリーポートLNGプロジェクトについてまとめております。

今回の火災に関連する損失額は、第3四半期実績で1,258億円となりました。

通期見直しは、上期決算以降に判明した再稼働時期の延期や、LNGスポット価格の高騰等によるLNG調達等に伴う費用の増加を織り込んだ結果、前回公表見直しから400億円拡大し、1,495億円の損失と予想しています。

損失の内訳として、国内エネルギーセグメントにおいて、「当社顧客向けLNGの代替調達コスト」や「他社へのLNG販売関連の対応損失」が大きく計上されており、海外エネルギーセグメントにオーナー側の損失がのっています。

フリーポートLNGプロジェクトは、現時点でもまだ再稼働に至っていませんが、規制当局より再稼働の準備作業に関する承認を順次得ていますので、間もなく部分再開がされると期待しています。

### ■ P5 第3四半期の対前年比較

5ページでは第3四半期実績の前年比較を示しています。

経常利益は、前年の 716 億円から 785 億円減益の 68 億円の損失となりました。

ガス事業では、JLC と比較した当社長期契約 LNG の競争力向上による増益があり、海外エネルギー事業やライフ&ビジネスソリューション事業においても増益となったものの、フリーポートでの火災に関連する損失-1,258 億円や、国内エネルギー事業のタイムラグ差損の拡大-320 億円などの減益影響が大きく、全体では前年に比べて減益となりました。

#### ■ P6 通期見通しの対前回(2022 年 10 月公表)比較

6 ページでは、通期見通しについて、10 月に公表した前回見通しとの比較を示しています。

国内エネルギーセグメントは、フリーポート LNG プロジェクトの火災に関連する損失が、再稼働延期の影響などにより約 400 億円拡大するものの、JLC と比較した当社長期契約 LNG の競争力が向上していること、原油価格下落や円高によってタイムラグ差損が縮小すること、等の増益要因もあり、55 億円の減益です。

一方、海外エネルギーセグメント、ライフ&ビジネスソリューションセグメントでは、前回見通しより増益となる見込みであり、連結経常利益としては、前回見通し 460 億円を据え置いています。

#### ■ P7 通期見通しの対前年比較

7 ページは、通期見通しの前年比較を示しています。

経常利益は、前年の 1,135 億円から 675 億円減益の 460 億円と想定しています。

ガス事業ではタイムラグ差損の縮小や JLC と比較した当社長期契約 LNG の競争力が向上による増益が見込まれますが、フリーポートでの火災に関連する損失 1,495 億円の影響が大きく、前年に比べて減益となる見込みです。

#### ■ P8 成長投資実績と見通し

8 ページは成長投資の実績と見通しです。

国内エネルギー事業では発電所など、海外エネルギー事業では北米上流事業の開発など、ライフ&ビジネスソリューション事業では都市開発事業などに対して、第 3 四半期までに合計 1,234 億円の成長投資を行いました。

第 3 四半期末時点の財務健全性指標は、中期経営計画で示している水準「自己資本比率 50%程度、D/E 比率 0.7 程度」を下回っていますが、年度末には発行済ハイブリッド社債の資本性 50%を考慮後の数値で、自己資本比率 50.8%、D/E 比率 0.66 に回復する見込みです。

以降は説明を割愛いたしますが、

9 ページからは、第 3 四半期決算について、

15 ページからは今回修正した見通しと前回の見通しとの比較、

21 ページからは今回修正した見通しと前年実績との比較を記載しております。

また 28 ページに当社のフリーポート LNG プロジェクトからの調達や出資等の関係についてまとめておりますので、ご参考にしていただければと思います。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

#### 注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。